京城日報

石腸、八紘、丹心隊突入

驅艦等五轟沈破

バイバイ沖 敵船團血祭り

【大本營發表】（昭和十九年十二月十三日十五時三十分）一、我特別攻撃隊石腸、八紘、及丹心飛行隊の各一部は其の他の飛行隊と共に十二月十二日レイテ島西岸バイバイ沖の敵輸送船團に突入し次の戰果を收めたり

轟撃沈 輸送船 二隻 驅逐艦 一隻

大破炎上 輸送船 一隻 驅逐艦 一隻

二、十二月十日迄に出撃せる特別攻撃飛行隊中現在迄に判明せる者（既發表の者を除く）次の通し

十二月七日オルモツク灣

一宇飛行隊（戰果は十二月九日發表） 陸軍少尉 田中 稔二 同 喜多川 等

八紘飛行隊（戰果は十二月十日發表） 陸軍少尉 粕川 健一

殉皇飛行隊 （同右） 陸軍伍長 五十嵐四郎

十二月八日オルモツク灣南方カモテス海

石腸飛行隊 陸軍少尉 伊藤

十二月十日スリガオ海峽

丹心飛行隊（戰果は十二月十一日發表） 隊長 陸軍中尉 石田國夫 陸軍少尉

同 石村正徹 同 佐々田眞三郎 同 大石榮 同 永塚孝三

全機殘らず命中

壯、第一線これ皆特攻隊

愛知、靜岡縣へ主力

帝都西國に少數機 八十機内外來襲

【大本營發表】（昭和十九年十二月十三日十九時）一、マリアナ諸島のB29八十機内外は本十二月十三日午後少數機を以て帝都附近及四國地方に、主力を以て愛知及靜岡縣地方に來襲せり、邀撃戰果に關しては目下調査中なり

二、愛知、靜岡兩縣下においては若干の地上損害ありたるも爾他の地方には被害なし

工場爆擊本格化

頻度、範圍擴大に嚴戒

西鮮地區に三機

鐵桶防空陣に忽ち遁走

朝鮮軍發表（十二月十三日）敵機三機は本十三日十一時卅分頃より十三時卅分頃にわたり西鮮地方に侵入したるも我が空地の鐵桶の防空陣に叫まれ何等なすところなく西方海上に遁走せり

一段と嚴戒 遠藤防衛本部長談

低空で侵入 十二日の來襲

一機、大連地區を偵察

正子女王殿下

朝香伯との御婚約勅許

宮内省發表（十三日）

社説

武勲顯彰に畢れ

金剛隊、驅艦一轟沈

中部比島て五機を擊墜

飛行場施設 六ケ所以上炎上

荒鷲、タクロバン强襲

殺傷二百九十五

五ケ所炎上 モロタイ爆擊

荒鷲カレワ周邊の敵陣爆擊

セブに五十機 レガスピー等

工國英軍包圍

アテネ戰鬪高潮

工國東傷で和協か

アテネ全市戰鬪續く

英太平洋艦隊 米、期待せず

米、占領地に資源供給せず

赤軍ブダペスト突入

デューレン一粁半に迫る

ライン渡河開始

ケンプ橋頭堡陷落

イラン新外相決定

米外交五原則 ス國務長官明示

V一號に無策

内鮮一體を實證

若人よ神鷲に續け！

空の勇士へ贈る人形展

中風に リキ

適應症 血壓亢進症 動脈硬化症 腦溢血 腦神經衰弱 ヒステリー 便秘・頭痛

隊長ブーリバ

全世界の眼はウクライナに注がれてゐる

アレキシス・グラノフスキ

ハリイ・ボール ダニエル・ダリユウ

十四日初日

海洋教室 日本ニュース

コリンヌ・リュシエール

十四日上映 明治座

十四日上映 入替なし

新版

第一話…甦る力 第二話…勇む心 第三話…日本の子 第四話…幼き荒鷲

原健作 市川春代

城南劇場 朝日座

溫布時間三十分

デルモライツ

感冒 肺炎 咽喉加答兒 中耳炎 ロイマチス 神經痛

護り拔かん我半島

"投彈"何ぞ恐れん

鐵火の平壤府民 見事な防空配置

防空災害者に 厚生年金保險を適用

見たぞ！憎きB29

流言に迷ふな

課長の談

丹心隊

日本晴れの出陣

見送る優しい母の姿

勝ち拔け貯め拔け最後まで

總督の溫情 孤兒院などへ金一封を贈與

內鮮一心 勝利へ邁進

八角、一松の兩議員獅子吼

昨夜

必勝譜

擊て！心のユダヤ人

木材增產に殊勳

けふ廿七名へ榮の表彰狀

敍勳の御沙汰

故山下龜三郞氏

誓つて生產に挺身

神鷲 林伍長の日記

腕ではない精神だ

飛行操縱に磨く男一匹

林伍長の一家

崇高な神鷲魂

民の感激の聲

山下龜三郞氏

證券市場

文化だより

親切な廣告

東天新生 （87）

運搬引越 德山運搬組

婦人病に惱む方は！ リウトン

結核に オネジラミン

放送 14日

紛失廣告

男女工員募集 沖電氣株式會社京城支店

新協樂劇隊 第一回披露公演 今日初日・20日まで 中劇

天安三巨里 海鳥曲 星と花の交響樂

新裝開館 第一回披露映畫 朝日座 十四日より

姿なき復讐 大京

原病院

男子工員急募 日本製粉 仁川工場